

「幼児教育の体験活動」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

准教授 牧 亮 太
教授 上 村 加 奈

1 はじめに

本科目は幼稚園教諭・保育士を目指す学生が2年次に履修する科目であり、1年次後期「幼児の理解」での学びを基礎として、1年間を通して保育現場にかかわりながら、保育の実践を学ぶことをねらいとしている（幼児教育コースにおける本科目の位置付けはp.73の図1を参照）。全授業時間90時間であり、その内訳は、事前・事後指導が30時間、体験活動が40時間、ボランティア体験が20時間である。

本科目が開講されたのは2020年度であったが、新型コロナウイルスの影響もあり、予定どおりの内容・期間で授業を実施できたのは今年度で2回目であった。なお、今年度の履修者は39名であった。

2 スケジュール及び概要

表1のとおり、授業を実施した。5日間の体験活動では、日誌の作成、手あそび・絵本の読み聞かせを行い、体験活動後にはエピソード記録を作成した。日誌の書き方に関しては1年次の「幼児の理解」で各自がまとめた記録に基づいて指導を行った。エピソード記録の作成は1年次からの継続的な取組であった。ボランティア体験については、事前指導を7月に行い、学生自身がボランティア先を探して、直接依頼することとした。時間数を把握するために、終了後には報告書を提出させた。

さらに、前期末に幼小交流会、後期末に校種間交流会を行い、教育の特徴や保育者・教員の役割について、他校種との違いや共通点という視点から意見を出し合い、理解を深めていった。

表1 2023年度の実施スケジュール

日にち	主な内容
4/12	ガイダンス
4/19	担当決め、事前訪問日程の調整
4/26	園の概要、準備物の確認
5/10	必要書類（日誌、略歴、出勤簿）の確認
5/17	体験活動の課題、事前訪問での確認事項
5/31	諸注意
6/ 5~9	体験活動（5日間）
6/12~16	〃
6/21	振り返り（エピソード記録）
6/28	振り返り（日誌）、お礼状の書き方
7/19	幼小交流会
7/26	ボランティア体験について
10/ 4	ボランティア体験報告会
1/10	校種間交流会の準備※
1/18	校種間交流会※
2/ 8	まとめ

注：下線部は他校種と合同実施 ※：昨年度からの変更

3 昨年度からの変更点における成果と課題

昨年度の内容から大きく変更したのは「校種間交流会の準備(1/10)」「校種間交流会(1/18)」であった。「校種間交流会の準備」では、翌週の校種間交流会の準備を行うとともに実習報告会(3年生)の動画視聴を行った。学修記録には「今までしてきたものと全く違う形式で緊張感もあって少し不安になりました」など不安や心配の声が見られた一方、「交流会で人に伝える練習をしようと思います」という前向きな記述もあったことから、1年後を見据えながら、現在の取組を意味付けようとする姿が確認できた。また「校種間交流会」では児童教育コースや中等教育専攻の学生を交えた小グループ(4~5人)で、それぞれの体験活動での学びを共有した上で「保育者・教員に求められる役割」について話し合った。その結果、「他専攻のことを理解し、学んでいくことで、より自分の保育者像もより深く明らかにしていくことができるのだと感じた。」といった校種間交流での意義に気づいた学生もいた。グループによっては幼教学生や中等学生が欠席のため不在となってしまったことが次年度の課題である。